

## 盛岡市・函館市の両教育委員会における「友好交流に関する覚書」の締結について

令和2年2月13日

教育委員会

### 1 趣旨

この度、盛岡市教育委員会と函館市教育委員会とは、石川啄木にゆかりのあるまちとして、「友好交流に関する覚書」を締結することについて協議が整ったことから、その概要を説明しようとするものである。

### 2 石川啄木と函館市の関係

啄木は、明治40年に渋民を離れ、北海道を転居しながら約1年間滞在したが、函館市は、最初に移り住んだまちであり、最も長い約4か月半を過ごした。その間、啄木は、弥生（やよい）尋常小学校の代用教員や函館日日新聞社の遊軍記者を務め、雑誌「紅苜蓿（べにまごやし）」の編集に力を注いだ。

函館で出会った友人の中でも特に宮崎郁雨（みやざきいくう）は、啄木の新居や家族の引越旅費の工面のほか、道内を転居し上京した後に残された啄木の家族の面倒をみるなど、経済的援助を行った。このような縁があって、石川啄木一族の墓は、函館山の南東側の立待岬近くにある。

### 3 これまでの交流実績

- ・平成8年度 啄木生誕110年記念事業の一環として、玉山村村長と村民が函館市を訪問し、函館市文学館等を訪問  
「啄木の里ふれあいマラソン大会（盛岡）」と「函館ハーフマラソン大会」への選手の相互派遣（盛岡市・玉山村合併前まで継続）
- ・平成9年度 函館市文学館の事業で函館市民が石川啄木記念館を訪問
- ・平成11～24年度 函館市文学館主催の「石川啄木講座」等に、講師として石川啄木記念館の学芸員を派遣
- ・平成13年度 函館市文学館事業で「啄木かるた大会（函館大会）」優勝者の「啄木かるた大会（玉山村大会）」へ派遣開始
- ・平成16年度 「啄木かるた大会（函館大会）」に玉山村の選手を派遣。その後、相互に選手を派遣し合う交流を行い、現在も継続中
- ・平成29年度 7月に盛岡市教育長が函館市教育長を表敬訪問し、「啄木かるた大会（函館大会）」を視察。30年2月に函館市教育長を盛岡市に招いて、「啄木かるた大会（盛岡大会）」のほか啄木ゆかりの地・施設等を案内
- ・平成30年度～ 両教育委員会間で啄木ゆかりの地・施設等の視察、意見交換を継続し、現在に至る。

### 4 覚書の目的

石川啄木の生誕の地である盛岡市と、新たな文学仲間との活動の場となった函館市は、共に啄

木にゆかりのあるまちとして、これまでも啄木かるた大会等において交流が行われてきたところである。

両市の教育委員会は、今後もこれらの交流が継続され、相互の理解と友好的な交流が更に深まるよう「友好交流に関する覚書」を締結しようとするものである。

## 5 覚書の内容

(1) 石川啄木に関連する交流に関すること。

ア 函館・盛岡啄木交流かるた大会への選手の相互派遣

イ 函館市文学館及び盛岡市石川啄木記念館のPRに係る相互協力（パンフレットの配置、ホームページのリンク貼付等）

(2) 石川啄木に係る情報の収集・提供に関すること。

ア 石川啄木に関連のイベント情報、観光スポット情報の収集・提供

イ 啄木関連の書籍紹介

(3) その他締結する覚書の目的を達するため、両市教育委員会が必要と認めた事項

## 6 覚書（案）

別紙のとおり。

## 7 今後の予定

令和2年

- ・ 2月15日 函館市教育長が出席し「覚書」の調印式（於姫神ホール）  
啄木交流かるた大会（盛岡大会）  
函館の選手チームが来訪し同大会に参加

## 友好交流に関する覚書

近代日本を代表する歌人石川啄木の生誕の地である盛岡市と新たな文学仲間との活動の場となった函館市は、石川啄木にゆかりのあるまちであり、両市教育委員会はこのことについて相互の理解と友好的な交流がさらに深まるよう次の事項について連携協力するものとする。

- 1 石川啄木に関連する交流に関すること
- 2 石川啄木に係る情報の収集・提供に関すること
- 3 その他本覚書の目的を達するため両市教育委員会が必要と認めた事項

令和2年2月15日

盛岡市教育委員会

教育長

函館市教育委員会

教育長